

秋田のトータルセールスについて。



Q 財政規模や人口規模が大都市圏と比べると小さい本県が取るべき戦略は持てる力を集約し、一点突破をすることで大きな成果を上げていく、いわゆる「弱者の戦略」を取るべきであると考えます。

本県は品川にアンテナショップ「あきた美彩館」、京橋に「あきたコアベース」の2拠点を設置しているが、機能統合も含めた事業集約を進めるべきと考えるが、将来の方向性を伺う。

A ご提言ありがとうございます。現在、アンテナショップのあり方検討会において、統合や機能集約することを含めて検討をしているところです。品川の再開が今後おこなわれる中で、現在の場所で営業を続けられるか不透明な状況でもあり、現段階では判断が付きにくい状況でありますので場所の検討も含めて今後の展開を考えてまいります。

県立循環器・脳脊髄センター（旧脳研）の現状と課題への対応について。

Q これまで脳や循環器の領域において県民に対し、高度な医療を提供してきた実績は評価しながらも、高齢化や人口減少が急激に進んでいる本県においては医療の役割も大きく変化をしなければいけない時代になったと考える。

今後、循脳センターの持ちうる人材や医療設備等をより良い形で県民のために活かしていくためにも医療法人や大学等との連携を進め「地域医療連携推進法人」として運用していくべきと考えるが、その方向性は。

A 循脳センターのこれまでの実績、設備、そして人材などを有効に活用していくためには、ほかの医療機関等と連携していくことは大変重要な視点と考えています。現在、次期中期計画の策定に向けて循脳センターでも様々な検討作業を進めているところでございます。その中でも有効な手段の一つとして捉えており、今後、県としても積極的に関わりを持ち、病院機構と話し合いを進めてまいります。



これまでの活動報告



県選出国會議員へ
防災・減災対策の要望。



災害ボランティアとして活動。



福島県に「水素」利活用の視察。



園芸農業の視察で小坂街へ。



地域住民からの要望の
追分地区道路改良が進みました。



大盛況だった
高橋 優さんのフェス。



2年目をむかえた
「しじみ復活プロジェクト」。



地域の方々のご協力により
八郎湖内の状況調査ができました。



あなたの声を聴かせてください。

事務所 Tel.018-878-5961
〒010-0201 潟上市天王字上江川47-1276
E-mail s4ign@uryu-nozomu.com

瓜生のぞむの
オフィシャルHPはこちら
<https://uryu-nozomu.com/>



瓜生のぞむ

検索

子どもたちが選択できる街を目指して。



山形市のシェルターインクルーシブ
プレイス「コバル」へ視察。

潟上市観光協会
会長を拝命。

6月議会 総括審査

梨の霜害による農家支援について。



令和5年4月下旬に発生した霜の影響で、天王地区を中心に梨が壊滅的な被害を受けました。5月22日知事へ支援の要望書を提出し、県としても直ちに支援を表明してもらいました。ただ、今年度の収量がほぼ見込めない状況にあったことから、支援の拡充を訴えました。

Q 霜害対策設備導入の補助率引き上げを

経営規模が小さい農家さんは設備費用が高額で、導入しづらいと聞く。補助率を引き上げることで、設備導入に踏み切る農家さんが増え来年度以降の被害の軽減につながると思うが。

Q 来年度の防除費用等への支援を

今年は9割以上の減収、来年も収穫できる秋以降まで収入がない状況が続く。潟上市は来年度の支援もする方向で動いているようなので、県も協調して支援をお願いできないか。

Q 収入保険の加入率を上げるための支援は

潟上市内果樹農家さんの加入率が46軒中1軒、そして全県的にも果樹農家さんの加入率は低い状況にある。今後加入率を高めるためにも、保険率、又付加保険率の一部支援をする考えは？

A 保険料への支援は考えていないが、設備、機械等の初期費用の支援を力強くサポートしていきたい。



Q 園地の承継について

異業種からの参入・承継が潟上市でも見られている。このような形での承継も今後は後押ししていくべきと考えるが、

A 県としてもマッチングをスムーズにできるよう支援をし、国の補助事業、技術指導を併せて設備に対する支援の拡充、また複数年に渡る経費の支援の必要性を訴えましたが、県の方向性は「これまでの全県での事例の中で補助率を決めてきている公平性の観点からも、難しい」との答弁でした。広い秋田県において毎年、さまざまな災害が発生しています。農家さんが安心して、未来に希望がもてるためにも、もう一步踏み込んだサポートが必要ではないかと私は思います。

6月議会 総括審査・委員会審査

中学校部活動の今後の競技大会のあり方について。

令和5年5月、秋の新人戦から継続して活動を続けていた合同チームが中体連夏季大会直前で合同チームが認められず、これまでの合同チームとしての参加が認められないという事案がおこりました。

少子化が進む本県では令和5年夏の段階で235校98チームという数の合同チームがある現状となっており、スポーツをやりたい子どもたちを救っていかなければいけない状況の中で、今すぐ改善が必要で緊急度が高いことから、所管である教委公安委員会、そして総括審査でも取り上げて改善を訴えました。



県教育委員会、中体連地区会長、県会長への申し入れ



部活動で最も大切なのは、個人はもとより、チームの仲間で泣いたり、笑ったり、苦しいことを乗り越えたりする経験が大切ではないかと私は思います。中体連にはどうか、子どもたちのこれまでやってきた時間を守ってほしいと訴えてきましたが、それを守ってあげることが叶いませんでした。

総括審査

Q 単一学校での中体連だけではなく、県そして各競技団体主導での新たな大会の枠組みも必要であると思うが。



A 今後、競技団体主催の大会を有効につかうことを勧めていながら、中体連の大会においても円滑に運営ができるように、中体連だけでなく競技団体やクラブチームなども一緒になって運営をするように進めていきたい。



県議会教育公安委員会審査

突然チームを解散させるなどということ、二度と繰り返してはいけない。子どもたちが泣かなくてはならないルールづくり急務であり、柔軟な運用を中体連に強く指導をしていただきたいと要望しました。



9月議会 一般質問

1 防災、減災対策について

1. 防災集団移転事業について
2. 被害想定区域の市街化の抑制について
3. 道路冠水状況の把握と情報発信について
4. 八郎湖の水位の調整について
5. 八郎湖及び周辺河川の浚渫等について

Picup!

2 食品製造業の強化について

1. 食品製造業全体の低上げについて
2. レトルト冷凍分野への支援と輸送コスト対策

3 観光消費額の拡大について

1. 観光コンテンツ連携による収益化について
2. 観光額目線に立った受入体制について

4 カーボンニュートラル実現に向けた産業振興について

1. 再生可能エネルギー分野進出への支援体制について
2. 水素の利活用と製造拠点の設置について

Picup!



Q 八郎湖、堤防、周辺河川を合わせれば広大な面積であり、県単独での事業実施は大変厳しいと考える。早期の事業実施のためには財政上の支援を国に対し強く要望し、事業を進めるべきではないか。

A 県内のさまざまな河川において浚渫の要望が多く寄せられているものの、限られた予算の中で優先度を勘案しながら実施している状況です。こうした状況であることから、国の予算の拡充や、緊急浚渫推進事業債の期間延長について国に強く要望していきます。

Q 今、水素活用の取組を加速しなければ再生可能エネルギー先進地の本県の優位性が失われる。世界をリードしていくためにも、水素の利活用や製造拠点の設置を今すぐにも進めるべきではないか。

A 水素製造の拠点化に向け企業グループと連携して取り組むとともに、国の支援制度の創設に向けた動きを注視し、国や企業等に対し県内における拠点整備に向けた働きかけを強めてまいります。